

軽度尿失禁用ショーツに関する基礎的研究

○前田亜紀子^{*} 道江砂恵子^{*} 山崎和彦^{*} 飯塚幸子^{*} 山本嘉子^{**}
(^{*}実践女子大学, ^{**}セゾン総合研究所)

〈目的〉検討対象の軽度尿失禁用ショーツは高分子素材等によらず、繊維自体による保水性により対処する構造となっている。通常 20ml 程度の失禁に対処可能であることが謳われている。そこで、物性さらには実際に着用した場合での生理心理的特性について明らかにすることを目的とした。

〈方法〉軽度尿失禁者用 7 種に一般のショーツ 1 種を加えた計 8 種について検討した。これらはあらかじめ 30 回の洗濯が行われた。物性試験ではサイズをはじめ保水性等について求めた。着用実験での被験者は成人女子 7 名とした。環境条件は 2 種 (20 °C・RH65%、27 °C・RH75%) とした。測定項目は被服内気候 (パンツ内の温湿度 3 点)、皮膚温 (パット付近 3 点) 及び主観申告であった。被験者には 50 分にわたり椅座位安静を保持させ、20 分目に滴下した。これらを経て最後に足踏み作業を行わせた。滴下はあらかじめパンツ内に固定したチューブを介して行った。

〈結果〉失禁用ショーツの保水能力はいずれも一般のショーツを上まわった。ただし滴下量 15ml に対し全ての試料においてもれがみられた。椅座位安静の保持中、被服内温度は滴下に拘わらず徐々に上昇し、作業時には約 3 ~ 4 °C 低下した。被服内湿度は滴下により上昇した。なお水分拡散は被験者によって異なり、パンツ前部での湿度が高い者は後部では低くなる傾向がみられた。主観申告においては、滴下に伴い、不快感、ムレ感、及びぬれ感が生じた。